LUZ の熊野古道案内

2008 年　5 月　上

5 月 1 日　～　10 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００８年　５月

５月　１日　郷土史　地震・津波
５月　２日　郷土史・小競り合い
５月　３日
５月　４日　イベント　磯崎まつり
５月　５日　磯崎まつり　**2**
５月　６日　磯崎まつり　**3**
５月　７日　月例　熊野市報　人口動態
５月　８日　ゴールデンウイーク
５月　９日　鉄道の旅と駅
５月１０日　こんな感じ・・・駅前食堂

2008 年　05 月　01 日

熊野の旅　郷土史　地震・津波

昨日書きましたように、およそ、郷土史とかには良くないことが一杯並びます。

婚姻などと言う祝い事は天子様とか若殿様の婚儀でも無い限り個人的な物で取り上げられませんからね。

このあたりでは、大きな大名家など無かっただけにそうした記録もありませんね。

めでたいことと言えば、神社の遷宮とお寺の造営とか位が出てくるだけです。

近年、南海・東南海地震が取りざたされていますが、目の前には大きな地震の巣を抱え、すぐ後ろにもそこそこの大きさの活断層を抱える紀伊半島ですから、記録にとどめられているだけでも随分の数の地震と津波がありますね。

古くは天武１４年（685）に地震と津波が記述されているようです。この一帯に津波が来て大きな被害が出たようです。それ以降、慶雲元年（70４）、慶雲４年（707）などは『日本書紀』が出来た年、養老４年（720）より前のものですね。

それ以降も天平６年（734）、天平勝宝５年（753）、天長４年（827）、斎衡２年（855）など、立て続けに出てきます。

中には地盤が 1mほど隆起したとかと言うものもあるようです。

鬼ヶ城や獅子岩が海中から姿を現した所ですから、不思議ではないですがね。

記録の中には倒壊戸数や死者数などまで記載された物があるようですが、一番新しい、昭和１９年のものの記録が一番いい加減なようです。

戦局が険しくなった時なので、『国民を動揺させ、敵国を利する恐れあり』と言うことで、軍部が記録の公表はおろか記録の破棄まで命じたようです。

新聞記者などの撮影した写真なども没収され、隠し持っていた物がほんの少々残っているだけです。

この隠ぺい工作の効果でこの地震、津波の被害の大きさは他所の人どころか地元でも消し去られてしまいました。

集落集落で、『ここまで津波が来た』『どっさり死んだ』『牛まで流された』などと言うあやふやな記憶が残されました。

そして、この地震を経験した人もほとんど居なくなって来ています。

１０歳の子供だった人でも７４歳と言うことですからね。

こうした記録を見ても、七里御浜沿いの集落はリアス式の入り江の奥にある集落に比べ津波の被害はうんと少ないようです。

熊野古道歩きは峠道ばかりです。

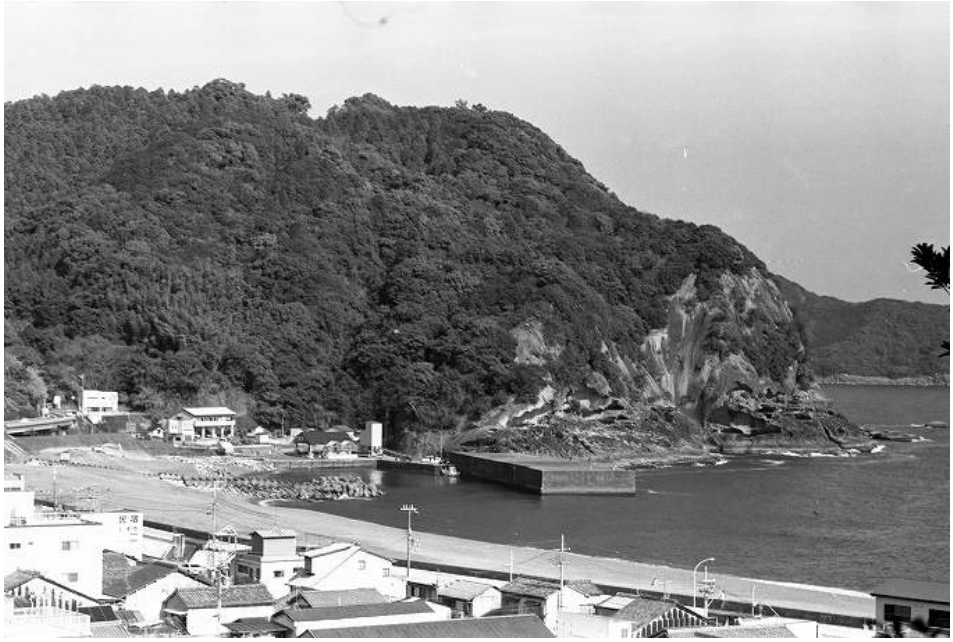
『山が割れ、大岩が転がった』と言う記録もありますが、よほど運が悪く無い限りそういうものには遭遇しないでしょう。

新宮の神倉さんから火の玉が飛び出して海に飛んでいったなんて記録もありますがね。

大都会で地震に遭うよりは田舎の方が逃げるのも簡単ですし…

と、言うことで、熊野の歴史ではこうなっていますが、びっくりしなくても、全国

どこの歴史でも良く似たものですよ。地震の無いブラジルなら別ですが、日本列島に住んでいればね…



Tags:熊野市 七里御浜 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-05-01 11:01

2008年　05月　02日

熊野の旅　郷土史・小競り合い

　良くないことの記録がやたらと多いのが郷土史だと書きましたが、全くろくでもないことが多く書き残されていますね。

　江戸時代には『奥熊野代官所』などと言う出先機関があったので、近郷近在の揉め事に対する訴えが木本に集まってきた面もあります。

　しかし、およそ記録が残されるようになってからはゴタゴタした物が多いようです。

　『大名』と言うものが出来上がって、全国の線引きが固まってくるまでは、ちょいと気の荒い親方が居る所は隣とすぐにけんかをする状態だったようです。

　天下の情勢にはおよそ関係ない程度ですが、有馬の親方が尾鷲までせめて行ったりしたようです。

　昭和の合併以前に存在した行政区画の『南牟婁郡』そしてその下の『木本』『飛鳥』『有馬』『新鹿』とか言う村々の名前や境界は奈良時代とかには固まっていたようです。　熊野市の場合、地形が複雑で山々に細切れにされた形ですから、そうした集落の境目は自然に決まったところが多いようです。

　細かい境界線では、どうしてここが？？？と言うところがありますが、集落ではなく、山の中の境界線にあるだけです。

　こうした、山を隔てた集落同士は割りと平穏だったようですが、七里御浜沿いに新宮まで続く平らな部分に点在した集落では、常に勢力争いをしていたようです。

陸上では親方同士が争い、海では漁師同士が、今で言う漁場争い、漁業権争を繰り返していたようです。
他所の網を上げてしまったとか、結構荒っぽい争いだったようです。

こうした争いの伝統は戦後になった頃にもまだ残っていましたね。
『青年団』などと言うものが盛んだった時代には、こうした集落同士の対抗意識がまだまだ強かった物です。
祭りや盆踊りの時に違う集落に出かけるのは少々勇気が要るものだったのです。
場合によっては袋叩きに合うってこともあったのです。

これが薄れていったのは、戦後の学校制度で『新制中学』ができ、幾つもの小学校が集まって中学が構成されるようになり、幅広く『同級生』『同じクラブ員』が居るようになり、青年になったときにも『他所の連中』ではなくなってきたことがあります。
おまけに、中学を出るとほとんどの子供がよそに出るようになり、残るのは進学した高校生…そうなると、熊野市、南牟婁郡全域が同級生とかに変わります。
そのうち、『青年団』も成り立たなくなって、広域の『青年会議』だとか『JC』だとかになって、広い範囲がお友達に…

昭和の合併で『村』は消えました。
昭和の終わりにはすっかり平和になりました。
平成になって又々広域合併で意識も変わってきます。
そのかわり、集落ごとの行事なども段々消えて行ったようです。
と、言うより、喧嘩をするほど威勢の良い若い衆も居なくなってきましたね。
最近のは『威勢が良い若い衆』のではなく『凶暴なやつ』が引き起こす暴力沙汰のようです。

Tags:昭和 熊野市 モノクロ

by **je2luz** | 2008-05-02 11:57

2008年　05月　04日

熊野の旅　イベント　磯崎まつり

昨日は何年ぶりかで『磯崎まつり』に行って来ました。と、言ってもこれで二回目顔を出しただけです。

元は十数年前くらいでしょうか、磯崎の若手が始めた町おこしのまつりでした。

当時、力を入れていた『磯崎のサツマイモ』の売り込みや、『磯崎の魚』の大安売りを目玉に、磯崎の港の周辺でやっていた物です。

いつ引っ越したのかは知りませんが、今年でかけてみると、場所は手狭な磯崎の町を離れて、隣の『井内浦の農村公園』に代わっていました。磯崎の隣りの入り江で元の泊村と新鹿村の境の辺りでしょうかね。

ここは野外ステージもあり、イベント広場や駐車場も完備したイベント用に作られた大きな公園ですから確かに会場としては立派な物です。

何しろ、国の『中山間農村集落何とか事業』で大々的にやった物ですからね。

国道３１１号線からはるか下の磯まで、急斜面に地図に白く示されている二車線の道路を切り開き、平地を造成した一大プロジェクトでした。

東屋、ステージ、広場、公衆便所、防犯灯など、必要な物は全部揃っています。

水の無かった所ですが、水もきちんと確保し、電気も電信柱を一杯立てて引いてもらった所です。

実はこの場所、『中部電力熊野原発』の予定地だった所です。

イベント広場は、原子炉本体が座るはずだった場所です。

もし、原子力発電計画が生きていれば、こんな所にのんびり腰をかけて海を眺めたり出来なかったでしょうね。

僕にいわせれば、全く無駄遣いの象徴のような公園ですが、原発を止める物としては有効な物です。

見て分かるように、井内浦湾なんてこんなに小さく、すぐ目の前は熊野灘…東南海地震の震源地と言われる地震の巣です。

およそ、原子力発電所を作るような場所ではないはずなのです。

『磯崎まつり』はそうした公園に場所を移して、本格的なイベントに姿を変えていました。
『姿を変えていた』と言うことで『発展していた』とは思えませんでしたね。
中味については続きに書きますが、手作りだった『磯崎まつり』が今流の『イベント』に変質していました。
これも賛否両論あるところでしょうね。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-05-04 12:02 | 熊野

2008 年　05 月　05 日

熊野の旅　磯崎まつり　2

『磯崎まつり』が随分変わっていたと言いましたが、イベントとしては随分進化したのかなと思います。
私が会場に行ったのは 11 時ごろでしたが、人出はそこそこありました。
ほとんどが親子・孫連れでしたね。

この農村公園は、どこの集落からも歩いては行けない場所です。だから、集落のお年寄りが老人車を押して…と言う、田舎の祭り的な光景は見られません。
そもそも、この『中山間農村なんたら事業』と言う旧農林省の事業は、『事業をするための事業』みたいな物です。
岡山の沖合いに浮かぶ島を視察に行った時も、集落も無く農地も荒地になっているところに、立派な道路を作り護岸工事を巨費をかけてやってありました。ここ、井内浦も、戦時中は段々に開墾した田圃や畑を耕作していたのですが、この計画が出てき

た頃にはほとんど荒地でした。

荒地だから、好きなように道を作ったりできるのですか…でも、本当は農地を守る事業なんです。

まあ、出来上がったイベント用公園としてはさほど大きくないとは言え立派な物です。

写真のような野外ステージがあり、この日もこんな太鼓の出し物をはじめ、色んな物をやっていました。

色んな出し物が用意された分、例によって当事者がすごく多くなって賑やかになります。

出し物の写真をほとんど撮っていないのは、好みの問題で、避けて通ったからです。
例によって、揃いの特攻服？とか揃いのTシャツをきた集団が、部外者には同じに見える今様の踊りを踊る物が多いからです。まさに、異様な雰囲気です。
ほかには、手馴れた口調で親子を誘導して遊戯させる催し物をやっていました。
こうした催し物は、小さな子供が居る家族にはありがたいものでしょうね。
遊園地も無いところですから、ゴールデンウィークの家族サービスが出来たことでしょう。

しかし、以前行った時と様変わりした感じなのは、『磯崎の人』があまり居ないことですね。
じいちゃんばあちゃんならそこそこ磯崎の人の顔も知っているのですが、一山越えた場所だし、きちんとスケジュール表で管理するイベントでは、そうした人の手出し口出しする部分も無いでしょうからね。

この公園の場所は、熊野古道『大吹峠』の波田須側の登山口から磯崎方向に引返した所にあります。
国道311号線には公園の標識があります、分かれてから急坂を下れば、小さな入り江に面した公園があります。
お弁当を食べて休憩するには良いでしょう。トイレもありますからね。
それに、平日などは事実上無人ですから…

Tags:熊野市 モノクロ 熊野古道 by **je2luz** | 2008-05-05 10:31 |

2008年 05月 06日

熊野の旅　磯崎まつり　3

『磯崎まつり』も手作りの物産販売の物から、イベントへ変貌を遂げ、少しばかり垢抜けしたように見受けられます。
それが、良い事なのかどうかは少し疑問もあります。
並んだ出店も熊野市内の各種団体がやっている物がほとんどでした。焼きそば・焼き鳥などの食べ物や、子供用の投げ輪遊びなども素人さんの店が並んでいます。
業者さんの露天はほんの少しだけで、端の方に固まっていましたね。
素人さんといっても、今の時代はきちんと用意されたイベント露天用のテントでの営業で整然としています。
仕方ないことなのですが、市内で行われるこうしたイベントで良く見かける顔ぶれが並んでしまいます。

人口二万しかいない熊野市ですから、こうした出店をやれる団体やスタッフは限られますからね。100 人に一人動員してもせいぜい 200 人ってことですからね。

場所も変わり、中味も変わり、主催者も変わって来て、『磯崎』ではなく『熊野市』の祭り的な雰囲気になっているように思います。

少し触れましたように、出し物も手馴れた感じの進行で、今様の集団が今様を踊っていました。

不思議なことに、『花の窟』にちなんだ創作舞踊とやらまで、まさに今様、ソーラン風のものでした。まさに異様な物でしたね。

尾鷲から来ていた顔見知りも、『なんで花の窟とあれが結びつくの？』と、言っていました。

部外者の私から見ると、いきがっている割りに発想が貧困なような気もしました。

こんな風に書くと叱られるでしょうがね。

普通なら張り付いてたくさんのカットを撮ってここに載せるはずなのですが、避けて通るように写真にはしませんでした。かなり、へそ曲がりなのかもしれませんが・・・

Tags:熊野市 モノクロ

by **je2luz** | 2008-05-06 11:03

2008年　05月　07日

熊野の旅　月例　熊野市報　人口動態

今月もものすごい数字です。

お誕生　　8
おくやみ　　18　　3月11日～4月10日
最高齢93歳、最若年61歳

出生数が少ないことを除けば、今月もおくやみの方はお年寄りばかりです。順当でしょうか・・・

人口　　20.795　　（-259）
男　　9.635　　（-165）
女　　11.160　　（-94）
世帯数　　10.061　　（-88）　　2008年4月1日現在

ものすごい数字です。

特にお役所の出先がなくなったとか、企業が潰れたとか言う話しでは無いのですが・・・

考えられるのは、近大高専と県立木本高校の卒業生が住民登録を移したことくらいでしょうか。

近大高専のほうの分は、定員どおり入学制が確保できれば少しは回復する部門なのですが、県立高校の方の分は出生数でカバーできないと不能ですね。

平成の合併で南牟婁郡の紀和町を吸収合併した新？大？熊野市の数字です。

まさに既得権で『市』と言う名前が付いているのです。

本来なら、旧南牟婁郡全域が合併すべきなのに、個々の思惑が先行して空中分解して、超過疎の紀和町だけが吸収合併でも…と言うことで、お茶を濁したのが今回の平成の合併なのです。

合併無しでならまだしも、表に出ない膨大な予算をつぎ込む、『合併』と言う作業をやったのですから、全くの無駄遣いでしょう。

将来において、御浜町、新紀和町との合併をしなくてはならないでしょうから、そこでも膨大な隠れ予算が消えて行きます。

国が飴玉をくれるから、自分の財布はさほど傷まない…この発想は、合併だけではなく、道路や港湾、何とか会館など国を破綻に追い込んでゆく事業を取りっこしている構図と同じです。

今年度中に戸数も一万戸を切ります。

偉大なる『村』…ですね。

そんなところがずらりと並ぶ紀伊半島南部に、隠れ高速道路の『直轄道路』、『高規格自動車道路』が細切れで出来上がります。

あと、10年もしないうちに、地元の車は激減し、細々走る車も『枯葉マーク』の付いた物です。

安い労働力を求める企業も、いくらなんでも65歳以上のおばあちゃんを求めては来ないでしょう。

と言うわけで、人口動態でした。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2008-05-07 12:19

2008年 05月 08日

熊野の旅　ゴールデンウイーク

ゴールデンウイークも終わりました。

今年のゴールデンウイークは大手の正規サラリーマンにとっては普段の休みとあまり変わらないもののはずです。

３連休なんて年中ある、『働きすぎない日本』ですから、今回の４連休なんて・・・

家の前の国道４２号線も少し車は多かったですが、大した事はなし、ナンバーを良くみれば『三重ナンバー』が７割から８割でした。隣りの新宮は『和歌山ナンバー』の他府県なのですから、いかに観光客が少ないかって言うことですね。

近隣の車が買い物に出たり、鯉のぼりを見に来たり、各種イベントに顔を出したり…

昨日載せたＪＲ紀勢線『ワイドビュー南紀』の写真はゴールデンウィーク最後の日、午後の上り列車だったのですが、ホームに人が群れるわけでもなかったですね。まあ、普段よりは乗客数は多かったようです。

今年はこんな配置だったからでしょう、海外組みも少なかったとか言いますね。

海外に出かける人は、現地で宿泊するし、お土産も買いますね。
それに引き換え、国内旅行では、まともに宿泊もしない人もいますし、お土産など考えもしない人が増えました。
まあ、昔から、『名物にうまい物無し』などと言いますし、ネームプレートが違うだけで、製造元が同じ『郷土玩具』や『煎餅』『漬物』『最中』なんて売ってきたのですから、偽装の元祖は土産物みたいなものですし、見放されても当たり前でしょう。

三十年ほど前に始まった『村おこし』『町おこし』も、全国に広がったら、結局は金太郎飴になるか、素人の思いつきで継続もしないし売れもしない、飯も食えない『地場産品』を莫大な予算を使って作ってみただけに終わった所が多いようです。
平成の大合併の前までの市町村は約 3300 でした。おそらく、そのうち 3000 はこの事業をやったでしょうし、今も、新しく出来た 2000 ほどの自治体は何度目かの新規事業でやっているのでしょうね。

『女房が　焼くほど亭主　もてもせず』　とかいうのがありますが・・・
『放送で　言うほど産品　売れもせず』　と言うのが現状でしょうね。

こんな記事の時には当たり障りのある画像も載せられませんから、『ワイドビュー南紀』の後姿を・・・
多分、これに乗っておられる方は、『熊野古道の思い出』と共に『南紀のお土産』をいっぱい持って帰っていることと思います。

Tags:熊野古道 JR 紀勢本線 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-05-08 11:32

2008 年　05 月　09 日

熊野の旅　鉄道の旅と駅

昭和の中頃、１９７０年代に入るくらいまでは、『旅』における鉄道の比率はまだまだ大きかったですね。

１９７０年と言うと大阪万博の時です。

この頃からは、団体さんはもうバス旅行に移っていましたね。そして、個人の方もどんどん『マイカー』に変っていった時代かと思います。

国産車もようやく５万キロから１０万キロくらいへと寿命が延びてきた時代ですからね。

熊野市駅はもっと前から元気がなくなってきていましたが、その頃までは国道４２号線も改修もようやくできたばかり、高速道路なんてものも 150Ｋｍも先の東名阪関インターまで行かないと無かった時代でしたから、少しは鉄道の有り難味が旅行者にも分かったのです。

団体さんも、こんなに奥地に来るときには、紀勢線で熊野市や新宮、紀伊勝浦の駅までやってきて、現地で三重交通、熊野交通のバスを仕立てて熊野巡りをすることが多かったのです。

バスは個人営業ではないといえ、地元に落としてくれる金額も増えたのでした。

熊野市や尾鷲市まで高速は来ていないとは言え、今では100Ｋｍ弱の所まで来ています。そして、もう何年かで難所と言われる尾鷲-熊野間も高規格道路と言うもので結ばれます。
都会の運転手でもらくらく来られる様になるそうです。

熊野巡り、熊野古道歩きと言うものは、現地に来てからの足の確保が苦しい物です。
今の都会人は、『バスの時間に合わせる』とか、『バスを待つ』なんてことには慣れていません。
それだけに、自家用車の旅行が増えて当たり前でしょう。
『ＳＬなら乗ってもよいけど…』なんて声も聞こえそうです。
熊野市駅前の大きくてきれいな看板は進学塾のを除くと、公金で揚げた物ばかりのようです。
熊野市駅に関しては、駅前にタクシーが一杯待っていますから、お金さえあれば足は確保できます。　熊野古道の入り口まで送ってもらって、出口に付く時間に迎えに来てもらうことも出来ます。
ぜひ、紀勢線も利用してください。
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-05-09 11:12

2008年　05月　10日

熊野の旅　こんな感じ・・・駅前食堂

以前は都会の真ん中にもあったし、田舎の繁華街や駅前にもたくさんあった、大衆食堂も随分数が減りましたね。
店によっては、看板に『大衆食堂』なんて書いてあったものです。
更に庶民的になると。『めし』などと書いてありましたね。
高速道路時代、ドライブイン時代に入る前は、国道１号線東海道沿いでもそんな食堂が軒を並べていた物です。
国鉄の駅前も、『大衆食堂』が定番でした。
下の写真は、昨日の熊野市駅前の写真にある『喜楽食堂』のショーウインドウの部分です。

熊野市駅前にあった、駅前食堂の中で今でも昔ながらに営業しているのはここだけです。

今では、看板の売り物が『めはり寿司』『サンマ寿司』になっています。

駅前食堂が盛んだった頃には、目張りやサンマ寿司は看板メニューではなかったですね。『うどん』『親子丼』などが良く食べられた時代でした。

『カレーライス』ではなく『ライスカレー』と呼ばれる物の方が幅を利かせていたものです。

この喜楽食堂は『駅前食堂』ですから、ごく普通の時間は営業しています。

駅前にありますから、別に案内の地図が無くても探し出せます。

順路をそんなに変更しなくても、『熊野古道松本峠』から『花の窟神社』へ向かう途中で立ち寄れます。

お昼ご飯などにはちょうど良い場所かもしれません。

看板に揚がっているのですから、『めはり寿司』や『サンマ寿司』にありつけることが出来るのでは無いでしょうか。

もともと、熊野名物のこの二品は庶民の食べ物ですから、『料亭』などと言うところには合わない物です。こんな風な大衆食堂のほうが似合うでしょう。

味と言うものは好みのものですから、とかく他人が言うのではないと思います。

典型的な駅前・大衆食堂の懐かしい方も一度行かれてはいかがでしょうか。

カメラは　**ローライフレックス・オートマットX　クセナー75mm**

Tags:熊野古道 JR 紀勢本線 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-05-10 11:24